

第 3 1 7 回 日本体育大学長距離競技会

【出場結果】

実施日 : 11月9日(土) 10000m 11月10日(日) 5000m

会 場 : 日本体育大学健志台陸上競技場

出場者 : 親崎 達朗 小林 航央 坪井 響己 小野 修平

出場種目・出場者・リザルト

氏 名	親 崎	坪 井	小 林	小 野
種 目	10000m	10000m	10000m	5000m
組	5 組目	5 組目	6 組目	23 組目
タイム	29'14"62 (セカンドベスト)	29'17"40 (入社後ベスト &セカンドベスト)	28'35"99 (新電元記録& 自己ベスト)	14'16"01 (自己ベスト)
順 位	22/30	23/30	8/29	4/39

【レポート】

先日行われた東日本実業団駅伝競走大会の結果はチーム目標と乖離し、厳しい現実を突き付けられた形となりましたが、年末までトラックレース、ロードレース、マラソンが各地で開催され、選手達はシーズンベストや自己ベスト更新を目指して積極的にレースへ出場を予定しています。

11月9～10日に開催された日本体育大学長距離競技会には4名の選手が出場しました。

初日の10000m 5組目には親崎と坪井が出場し、共に自己ベスト記録の更新を意識してレースに臨みました。

1000m2分55秒を切るペースでレースは進み、二人は5000mを14分28秒台で通過し、自己ベストを更新するには絶好のペースとなりました。

親崎と坪井は7000m過ぎまで先頭集団に食らいつきましたが、先頭集団のペースが一気に切り替わると、集団からは離れたものの、2人ともペースダウンを最低限に留めて、親崎が29分14秒台、坪井が29分17秒台でゴールし、2名ともセカンドベストをマーク（坪井は入社後のベスト）し、駅伝での悔しい走りを払拭する結果となりました。



苦しい表情の中、粘りを見せる坪井



勢いのある走りでセカンドベストをマークした親崎

最終組となった 10000m6 組目には小林が出場しました。

1500m では日本選手権に出場し、スピードが持ち味の小林ですが、11 月 23 日には初マラソンとなる大田原マラソンを控えており、夏場から意欲的には走り込んできました。

結果として、最近では長距離のトレーニングも自信を持ってこなせており、マラソン前に 28 分 59 秒の自己ベストの更新を目標としてレースに臨みました。



序盤から 1 周 68 秒の安定したハイペースでレースは進み、5000m を 14 分 16 秒台の好タイムで通過しましたが、小林はまだ表情にも余裕があり、好記録に期待が高まりました。

レースが動き出した 8000m 過ぎに集団から少し離れたものの、しっかりと前を見据えて走り、得意のラスト 1000m からは一気にスパートを仕掛け、前方の選手を次々と抜き去り 28 分 35 秒台でゴールし、昨年に加藤が更新した新電元記録（28 分 42 秒）を上回る見事な自己ベスト記録をマークしました。



見事に新電元記録を更新！！ おめでとう！！

翌日に行われた 5000m23 組には小野が出場しました。

駅伝では悔しさが残る走りとなった小野ですが、練習もしっかり積めていたため、自己ベストである 14 分 22 秒の更新を目標にしてレースに臨みました。

序盤から 1 周 68 秒を切る理想的なペースでレースは進み、3000m を 8 分 34 秒で通過すると、以降は先頭でレースを進め、キレのあるラストスパートもみせ、14 分 16 秒台でゴールし、自己ベストを見事に更新する走りを見せてくれました。



自己ベスト更新おめでとう！！

【総 評】

今回のレースでは、小林が 10000m で新電元記録・自己ベストを更新したのを始め、親崎と坪井もセカンドベストをマークし、5000m では小野が自己ベストと、出場者全員が勢いのある結果を残すことが出来ました。

駅伝では結果につながりませんでしたが、個人としては、着実に力をつけていますので、今回得た「速さ」を「強さ」に変えて、チーム力の底上げを図っていきたいと考えます。

ここから年末までレースが続きますが、体調管理を第一に日々の練習に取り組み、選手達が各自の目標を達成出来るよう、チーム一丸となって活動に取り組んで参ります。

今後とも皆様の温かいご声援をお願い致します。

以 上